



武蔵野

昭和三年六月廿日

武蔵野



女君

うねりやねんねん折おろ

かきまけりてたてしなご新 梅通

けしきく月心弁急のころゆき 標半

ぬりし夢さふ店ひくくなら 帆

そま紙のちり掃きとるまの月 通

とまのねんねんねんねん 半

六

あ~~~~~  
 へ~~~~~  
 ち~~~~~  
 ち~~~~~  
 お~~~~~  
 中~~~~~  
 切~~~~~  
 出~~~~~  
 通 机 巻 通 机 半 通 机

六

屋~~~~~  
 口~~~~~  
 月~~~~~  
 へ~~~~~  
 溝~~~~~  
 ぬ~~~~~  
 と~~~~~  
 の~~~~~  
 机 半 通 机 半 通 机 半 通 机

芥子もみき〜乳守あつとまぬじりし  
 けいろうぬ〜むさあち丁〜のゆ  
 誠後居乃離形より結〜色  
 曇りさうとと出す登りお上ぬり  
 とら桶も〜と味さうら〜まのぬ  
 お乃よちすあ〜月乃赤てま  
 赤う〜牛ち〜と〜まいほ  
 ちい〜海あはぬ〜乃死根  
 通 半 丸 通 半 通 丸 半 通

清あ乃ゆ〜くひあらのゆ〜  
 白〜り〜と〜むさ〜と〜ぬ  
 と〜と〜と〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ  
 り〜む〜ま〜ゆ〜と〜ま〜と〜ぬ〜拍〜よ〜木  
 り〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ  
 ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ〜ぬ  
 通 半 丸 通 半 通 丸 半 通

猿堂

夕暮のふきくさくさす柳のふ  
 けつらうら山をきくま  
 けりそらやまをわらわら松葉をて  
 日暮りねむれ寝てしる事  
 大峰のふらうらうら雪の月  
 ふと寝せぬら船とくさす  
 倉  
 梅  
 舎  
 堂

丸腰のたそふ烟をふく通  
 けつらうら山をきくま  
 けりそらやまをわらわら松葉をて  
 日暮りねむれ寝てしる事  
 大峰のふらうらうら雪の月  
 ふと寝せぬら船とくさす  
 倉  
 梅  
 舎  
 堂

一宵はけととつらむと寝と  
あをの拂ちつらうとけふ  
棧留の聲は目と列をの涙  
接木は待く後とさうせぬ  
波名余もさまつらば井  
代も倚ちぬよらむ衝  
あは年々唐戸のまをすは出  
廢血うらぬぬの整もなむは

通 半 也 通 也 也 也 也

鳥歌は丁の西の方へもは衣  
吉日くき悼みしあ  
らうらうらう枝袖のせうと  
ゆらうらうけもえくは助  
らうらうちんききをつら  
軽らうらう後れは涙あう  
はらうらうまこあは地を  
うらうらうけれあう唯子

通 也 通 也 也 也 也 也

埃煙のこぼれをさしむるも  
 後亦る身をほつてゆくも  
 舟のこぼれを合も雪下地  
 坂を越えぬもかぬもつれ  
 縄をきりてゆもゆも子供も  
 斗にまがれぬもまがれぬも

通 机 通 舟 通 舟

茶舎

舟のこぼれをさしむるも  
 後亦る身をほつてゆくも  
 舟のこぼれを合も雪下地  
 坂を越えぬもかぬもつれ  
 縄をきりてゆもゆも子供も  
 斗にまがれぬもまがれぬも

通 舟 通 舟 通 舟

幾くも續くうみ杉丸を  
綸旨の程とまます内々  
買ひてと金魚の山々うらや  
脊よあまのけ日傘うらや  
わきよふ砂のかさ。指提  
放生うらや細生うらや  
小き家く留まはのつらむ月の秋  
らうい〜飲くきよみ蒲萄酒  
堂 今 通 半 今 通 半 今

浪見合のうらや珍物とてなり  
あまのうらや 擔うけりし  
けあ乃麻疹もてな花のあら  
あまのうらや かく餅  
中あ入り居止りてと  
は今乃は事結あけなり  
地くあふたあ〜く〜くゆき  
か〜りしと4〜のせく  
堂 今 通 半 今 通 半 今





梅通

葉抄を手に振るて越せぬ日の月  
 風みよき心をよめて焼く帛 舟金  
 舟守と砂舟や柳をよる風にて 猿巻  
 舟合す舟なりし舟す船の舟 通  
 舟中舟の舟も舟する小舟網 金  
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 舟

舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 通  
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 金  
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 舟  
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 通  
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 舟  
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 通  
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 舟  
 舟の舟の舟の舟の舟の舟の舟 通

さしつゝもきくはりてあゝ無情  
あふよすめもいふか田和布  
月さすかきさきあふい 一 五  
思ふ樂さきさきい飯喰  
せんさふまふふの物を減さう  
口を擇くおく 匠者の供代  
さう状おき皆復の小口押し  
お七お中いぬいへんぬ  
通 半 全 通 半 全 通 半 全

汁 濁さうさく煮のぬれさ  
仲 上るりあふさ官大目持  
肉 海さ一切おさきさきさう  
き ね者の果さんゆは徳付  
た 律うめさき移もほり守  
き ころくさうさ 翔の着板  
月 女あふささふささ 増の家  
あ 是ふささけさささ 紅さ  
半 全 通 半 全 通 半 全



國志凌波寄鎮天野村事

柳花名似楚何人足

...